

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	鹿児島県指定 第4670900184号
法人名	有限会社 めぐみ福祉会
事業所名	大口めぐみの里
訪問調査日	平成 21 年 11 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 12 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670900184号		
法人名	有限会社 めぐみ福祉会		
事業所名	大口 めぐみの里		
所在地	鹿児島県 伊佐市 大口曾木 480番地 (電話) 0995-25-2323		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年11月16日	評価確定日	平成21年12月12日

## 【情報提供票より】 (21年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤7人 非常勤15人	常勤換算14.5人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 平屋葺き 造り
	1階建ての～1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名	
要介護1	1名	要介護2	8名			
要介護3	5名	要介護4	2名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	88.6歳	最低	80歳	最高	99歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科松元病院	古川医院	坂口歯科医院
---------	----------	------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の田園と住宅地の中に立地し、敷地内に通所・訪問介護事業所が隣設されており、常に近隣の暮らしぶりに触れる機会の多い環境にある。入居者は、生活感・季節感あふれる環境の中で、明るく穏やかな暮らしをしている。感染症対策も充実しており、健康管理にも配慮がなされている。当事業所の近隣住民の福祉に貢献していく取り組みは、家族や地域住民から、評価されており、地域に密着したサービスが展開されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期について本人、家族等に関わる関係者と連携を取りながらホームの指針を作成し、最善の対応ができるように取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について管理者、職員は話し合い、意義を理解して前向きに取り組んでいる。評価結果を踏まえて改善に向けて検討や実践につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は多数の参加を得て定期的開催されている。重度化や看取りに対する具体的な意見やアドバイスを受けて、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時や家族会時に家族同士で話し合ってもらい、代表より意見や要望をもらっている。出された意見や要望等は職員と話し合い、運営に反映している。意見を出してもらえよう各居室に連絡帳を設ける準備をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、回覧板配布や地区の清掃作業、地区住民との一日旅行に参加している。小学校の運動会・学習発表会の見学や学生のボランティアの受け入れのほか、民生委員や他地域活動支援センターからの旅行日程にホーム見学が組まれており、交流は盛んである。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割、地域でその人らしく暮らし続けるための理念を、開設時に職員の意見を集約して作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールや玄関に明示している。年間目標や一日の目標を掲げて、申送り時に唱和し共有に努め、日々のケアに活かしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板を届けたり、地域の清掃作業、地区住民との一日旅行に参加している。小学校の運動会・学習発表会の見学やボランティアの受入れ、他集落住民の旅行日程に当ホーム見学が組み込まれたり、交流は盛んである。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、職員で話し合い、意義をふまえて、前向きに取り組んでいる。評価結果を踏まえて、改善に向けて検討や実践につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は多数の参加者を得て定期的に開催している。重度化や看取りに対する具体的な意見やアドバイスを受け取り組むなど、サービスの質の向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と、入居者の事故報告や身体状況・取り組み等の相談を行いながら、協力関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りやケアマネージャーによる月次報告をしている。来訪時や電話・通信等で、日常の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳を開示しサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族会等で家族間で話し合いを行い、代表より意見や要望を聞いている。意見や要望等は職員で話し合い、運営に反映している。また各居室に連絡帖を設ける検討をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識しており、なるべく職員の異動が無いように心がけている。やむを得ない異動の際には十分な説明をして、入居者へのダメージを防ぐように努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が作成されており、段階に応じた研修に交替で参加し、研修報告もされて職員は共有できている。資格取得者も数名いてチャレンジしている職員に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の協議会、地域グループホームの勉強会に参加する他、相互訪問や交流を行い情報交換を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には、訪問し生活歴の把握に努めている。見学や体験入所を試み、徐々に馴染みながら信頼関係作りに努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々を共にしながら、食事形態や子供の育て方、生活のエピソードなど教わっている。子供からのプレゼントを大切に肌身離さず持っている姿などを通して感動している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で問いかけたり、行動や表情を観察して把握している。入居者の意向に応えられるように、職員の勤務体制を組み替えるなど、工夫しながら対応している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、主治医・職員などの意見を活かした、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア記録や申送りノートを活用しながら、定期的な見直しと状態変化時・退院時の折には、その都度見直しを行い職員も共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っている。本人や家族等の状況や要望に応じて、病院受診・自宅訪問・墓参り・理美容院の送迎等、必要な支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等と相談しながら、納得したかかりつけ医へ受診や訪問診療の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、本人や家族・主治医・ケアマネージャー・職員・医療機関と連携を取りながら、ホームの指針を作成し、最善の対応ができるよう取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に対して、入居者の尊厳を大切に、穏やかな声かけや態度で対応できるよう、ミーティングや日々のケアの中で、常に意識づけをしている。職員採用時の個人情報保護の誓約書もある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、起床・食事・レクリエーション・就寝など、一人ひとりの心身の状況に合わせて自由な生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を取り入れながら献立を作成し、下ごしらえや配膳など、職員と一緒にいき、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの習慣や希望に応じて支援している。入浴を拒む入居者には、言葉かけや人員体制を工夫しながら、入居者の清潔保持に努めている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物の整理・裁縫・絵を描く・新聞・本読み・工作など、得意な事に力を発揮してもらったり、併設の通所介護に出かけたり、外食・墓参りなど、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物・併設の事業所に出かけている。その他、花見やソーメン流し・ぶどう狩りなどに出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、入居者の動作や所在を確認しながら、きめ細かな見守りをして、一緒に行動するように心がけ、自由に暮らしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署や住民の協力のもと、昼・夜間想定での避難訓練を行っている。災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録して、摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて食事形態を変えて提供している。栄養バランスも考慮した献立になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、換気や臭いに配慮が行き届いている。快適な湿度の確保がされている。接客ルームもあり、ホールには季節行事の飾り付けや花などが飾られており、生活感あふれる共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・椅子・タンス・時計・新聞・雑誌・工作物・家族写真など、馴染みの物や好みの物が持ち込まれている。居室入り口に、ぬいぐるみや折り紙細工を飾る等、工夫し個性的な居室作りである。		

※  は、重点項目。